



■発信元
SPARCS事務局
■発行責任者
院長 吉田茂昭
■連絡先
青森県立中央病院 経営企画室
(電話)017-726-8402
Vol. 6
2013年11月1日発行

がん診療センター診療科 外来除痛率調査のご報告

2013年4月16日からがん診療センター診療科外来で除痛率の調査を開始し、8月9日まで、延べ7,163名の患者さんにご協力いただきました。また、外来診療で多忙な中、医師・看護師をはじめ医療事務・医師事務の方々など、多くの皆様にご協力いただきましたことを感謝申し上げます。SPARCSでは現在、この調査の結果を精査し、今後の診療に役立てていただける方法を検討中です。

今回のNews Letterでは、がん診療センター診療科外来の除痛率調査結果についてお知らせしたいと思います。

- ・SPARCS外来調査期間 2013年4月16日～8月9日
- ・研究対象患者数(延べ):7163名
- ・平均年齢:66.2歳(±11.5) Min19~Max99
- ・性別:男性3824名 女性3339名
- ・診療科内訳

診療科	人数	%
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	448	6.2
外科	2,862	40.0
血液内科	291	4.1
呼吸器科	801	11.2
消化器内科	1,686	23.5
泌尿器科	756	10.6
婦人科	280	3.9
緩和医療科	39	0.5

受診患者の治療歴

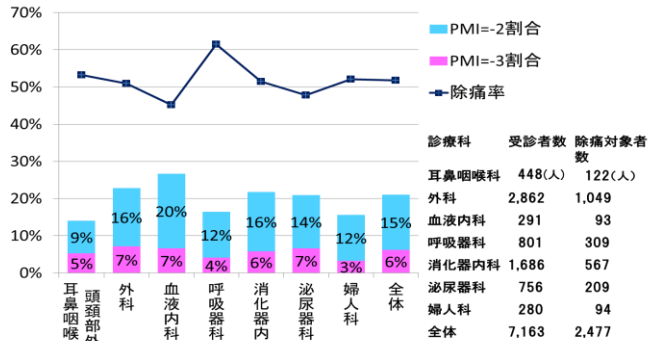
がん患者全体の治療歴を調べたところ、手術治療歴のある患者さんが61%、化学療法歴が64%、放射線治療歴が21%であることがわかりました。

	治療あり	治療なし
手術治療	4,405名 (61%)	2,754名 (39%)
化学療法	4,638名 (64%)	2,521名 (36%)
放射線療法	1,559名 (21%)	5,600名 (79%)

除痛率とPMI (Pain Management Index)

図1は、除痛率とPMIの結果を示しています。PMI-2とPMI-3は、痛みが強いにも関わらず不十分な鎮痛薬が選択されていると推測されます。この調査では痛みの原因を区分しておらず、がん以外の痛みも含まれていますが、当院のがん診療センター診療科外来の除痛率は51.7%と、入院の除痛率よりも低いことが明らかになりました。

＜図1＞ 各診療科の除痛率とPMIの割合

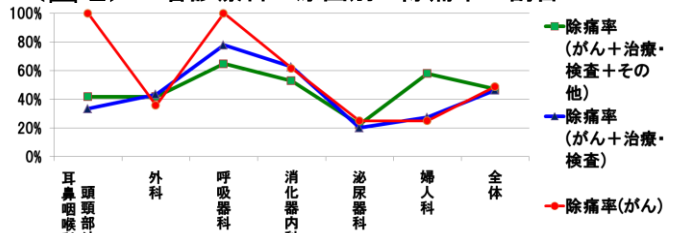


PMI←2: 痛みが強いにも関わらずNSAIDs・アセトアミノフェンを投与している患者
PMI←3: 痛みが強いにも関わらず無治療または鎮痛薬の処方がない患者

原因別の除痛率

図2は、カルテを基に原因を区分し、原因別に除痛率を調査した結果です。調査期間(2013.7.16～7.22)は1週間と短期間ですが、各診療科の除痛率の特徴が伺えます。

＜図2＞ 各診療科の原因別の除痛率の割合



各診療科の原因別の患者数	がん+検査治療+その他(患者数)	がん+検査治療(患者数)	がん(患者数)	※耳鼻科 7/17～7/23	※婦人科 7/17, 22, 29	※緩和医療科 対象期間対象患者なし	※血液内科 対象期間調査なし
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	12	6	2				
外科	65	52	14				
呼吸器科	15	8	4				
消化器内科	36	24	13				
泌尿器科	9	5	4				
婦人科	19	11	4				
全体	158	108	43				

つらさの症状の内訳

図3は、痛み以外の『つらさの症状の内訳』を示しています。すべての診療科で最も多いのが「だるさ」の症状であり、がん患者の2割の方が訴えています。次いで「便秘」が14%であり、「吐き気」は全体の5%と最も少ない症状でした。

＜図3＞ 診療科全体の症状別の割合

